

Top message

ジャンルにこだわらず、柔軟に新事業に挑戦

もともと建築業を主体に事業を展開していましたが、2010年より再生エネルギー事業、2014年より公共インフラの保守・点検の事業を手掛けています。さらに2016年からは農業分野にも進出しました。企業なのでもちろん収益を目指してさまざまな事業を展開しているわけですが、私達が行っている企業活動はただ儲かればよいというわけではありません。これからやろうとしている事業は本当に社会に必要とされているか、私達がそれをする事で人々の暮らしの役に立ち、ひいては社員が幸せになるのかということをも徹底的に考えた上で新しい事業に挑戦してきました。どんなに時代が変わろうとも、KGGホールディングスはこの企業哲学を大切にしつつ、自分達が正しいと思う事業に挑戦し続けます。

適性が見つかるまで、何でもやってみよう。

一般的に、仕事を効率よく、スムーズに進めるためには「人材の適材適所」と言われますが、社会人経験の少ない若い人は、まだ自分の適性などわからなくて当然だと思います。当社では、さまざまな事業がありますから、適性がわからないなら実際にいろんな仕事をやってみて、適職を見つけようというスタイルです。もちろん早くから自分の得意分野を定められる人もいますが、遅くからくっつく人もいます。みんなが早くから伸びる必要はないんです。時間をかけ、苦労しながら伸びた人はものの道理、人の痛みがわかった仕事ができます。企業としてはいろんな人がいる方が、可能性が広がります。ですから、私は社員の個性はばらばらでいいと思っています。個性はばらばらでも、一つの目標に向かって一緒に頑張ることが大切なのです。



2017年、木下エネルギーパークが新しく取得した和歌山県御坊市にある太陽光発電所。



2017年9月、広島市認定農業者となった木下ファーム。今まで以上に地域に密着した活動を。



KGGホールディングスはBリーグ、広島ドラゴンフライズの公式トップパートナーです。

やられる作業ではなく、やりたい仕事をする。

では、大勢が一つの目標に向かうために心一つにするにはどうしたらいいのか。それは、自分の仕事の意味や社会的意義を知ることから始まります。やれと言われたからやるのではなく、何のためにそれをするのか、それをする事で誰が喜ぶのかを考え、自分がやるべきだと納得した上で仕事をして欲しいです。一人一人がそういう気持ちで仕事に当たってれば、自然と一つの目標に向かって頑張れます。そして、困ったことが起これば、必ず先輩や後輩、仲間が助けてくれます。解けない問題に突き当たった時は、そばにいる人に相談してみたいです。

私共のような中小企業の良さは、事業の垣根を越えて社員同士の顔と名前が一致するつきあいができることではないでしょうか。私自身も朝は必ず社員と挨拶するようにしています。一瞬の挨拶だけでも体調や心配事がないかなど、伝わるものがあります。私にとって社員との挨拶は大切な時間です。

普段から声をかけあっていると、上司と部下、経営者と従業員の区別なく、言いたいことが言える関係性が作りやすいです。私はこ

れこそが中小企業の強みだと思います。「実は今、興味を持っている新事業がある」、「思い通りに進まなくて困っているのだけど、いい知恵はないか」など、わざわざ会議やミーティングの時間を待たなくても当社の社員は普段から仕事の相談をし合っています。もちろん中には直接言いにくいという人もいますので、月に一度、外部コンサルタントの協力のもとで面談を行っています。そこで悩みや相談話を話してもらい、なにがとも早期解決に取り組んでいます。

日本の財産である自然・伝統・技術を守りたい。

私達は毎年のように新事業への挑戦、既存事業の再構築、進化を繰り返しています。ここで、近年のグループ企業の主なトピックスをいくつかご紹介しましょう。

まず、2017年10月に木下エネルギーパークが和歌山県の太陽光発電所を買取りました。現在、広島県内十一カ所に発電所を施工、所有していますが、今後は県外の既存の発電所施設の取得にも積極的に取り組み、初期投資を抑えた売電で収益を高めたいと考えています。また、今後の目標として、島しょ部への

再生エネルギー事業の展開も考えています。

そして、2018年春には木下ファームの水耕栽培ハウスが2棟から6棟に増設します。今後は地域でニーズが高いハーブや香草類も市場に提供していきます。また、2018年秋には三原市にあるぶどう園での初収穫も予定しています。既存のぶどうに加えてギフト用の品種など新たな魅力づくりに挑戦します。今後も木下ファームでは農業を通して地域雇用、障がい者雇用を創出し、後継者問題を抱える日本の農業に新しい成功モデルを確立したいと思っています。

建築業の分野では、2017年11月に広島のお舗水道設備業のヤマテ工業様、グローアップ様がグループ企業に加わりました。いずれも後継者問題を抱えておられました。長年の実績と信用がある企業です。共に歩むことでその技術力や伝統を次世代に伝えていけたらと思ひ、提携を決めました。

再生エネルギーや農業で、里山の自然環境を守り、ご縁のある老舗企業様と提携することで長年培われてきた日本の建築技術、伝統を次世代に繋げる。全て「社会にとって必要」と判断し、決めた事業ばかりです。これからの理念にかなうことであれば、私達はどんな分野にでも仲間とともに開拓者精神でチャレンジしていきます。



株式会社KGGホールディングス
代表取締役社長 田中 敏彦氏

Profile

1959年山口県岩国市生まれ。1988年(有)木下組 代表取締役社長就任。2014年分社により木下グループに組織変更、2016年よりKGGホールディングスと社名を改め成長を目指す。正々堂々とした仕事で利益を出し、利益を社員に還元することが自身の喜びと言う。社員との交換日記や再雇用の人には夫婦同伴での面談など、社員を見る眼差しは厳しくも温かく、さながら父親のよう。社員が幸せであることが一番の関心事。



社会に有益な事業を

志を一つにして挑戦